

いわて東北メディカル・メガバンク機構 研究計画書（概要）

研究題目	肥満度に着目した生活習慣と生活習慣病関連アウトカムの関係		研究期間	2019.12.1～2021.3.31	
実施責任者	石垣 泰	所属	医学部内科学講座 糖尿病・代謝内科分野		職位 教授
研究目的	<p>これまで、いわて東北メディカル・メガバンク計画参加者2万3千人において成人以降の体重増加が低い活動度やメタボリックシンドロームなどに関連することを明らかにした。より大きなコホートである6万7千人の東北メディカル・メガバンク統合データベースで、肥満度に着目した視点から生活習慣と生活習慣病リスクとの関連について解析する。</p>				
研究計画概要	<p>わが国では糖尿病等の生活習慣病の予防が、健康寿命の伸延に向けた重要な課題である。また東日本大震災以降、被災地では肥満や生活習慣病発症リスクが増大していることが問題となっている。</p> <p>申請者は、いわて東北メディカル・メガバンク計画参加者2万3千人のデータを用いた解析で、現在同程度のBMIであっても20歳以降に10kg以上体重が増加した群では、非増加群に比し、活動量が低くメタボリックシンドローム該当率が高頻度であったこと、高血圧、脂質異常、高尿酸血症等の生活習慣病の有病率が高い事を報告した。また、コーヒー摂取量、現在歯数、睡眠時間などの生活習慣関連調査票項目がPWVを指標とした動脈硬化と関連する事を示した。</p> <p>こうした研究から、生活習慣が体重変化を介して生活習慣病のリスクを増加させ、合併症にもつながることをあらためて確認できた。東北メディカル・メガバンクでは生活習慣関連項目に関して詳細な調査が行われていることから、より多数のデータを解析することでさらに関連の強い因子が明らかにできると期待している。特に20歳からの体重変化や現在の体重、腹囲、内臓脂肪といった肥満に関する視点から解析を行うことで、生活習慣に基づく生活習慣病、ひいては合併症のリスクの予測につながる可能性があり、被災地のみならずわが国の生活習慣病予防に役立つ成果が得られるものと考えている。</p>				